



日本キリスト教団  
**泉ヶ丘教会**  
 牧師 上田 真由美

〒590-0114 堺市南区榎塚台 1-1-5  
 TEL/FAX 072-291-9532

メール izumigaoka9532church

@yahoo.co.jp

■ 礼拝・集会 ■

- ・ 主日礼拝(日) 午前10時30分
- ・ 教会学校(日) 午前9時
- ・ 聖書を学び祈る会(木) 午前10時30分
- ・ キリスト教入門講座・家庭集会
- ・ マリヤ会・テモテ会、他

■ 教会標語 ■ 『キリストを証する教会』

主の2018年4月1日  
 第97号 イースター号

主イエスが十字架につけられ失  
 望していた二人の弟子が、主が復  
 活された日に、エルサレムにいる  
 ことをやめて、エマオの自分の家  
 に帰って行こうとします。すべて  
 空しく感じられたからでしょう。  
 彼らの心は主のことではない。  
 主のことばかり語り合っています。  
 た。その時、復活された主が近づ  
 いて来て一緒に歩き始められ、し  
 かもこう話しかけられたのです。  
 「歩きながら、やり取りしている  
 その話は何のことですか」。もち  
 ろん主は、彼らが何のことかとい  
 っていたかをご存知だったでしょう。  
 それなのに、何も知らないかのよ

うに話を聞き出されました。この  
 時には、二人とも主だと気づいて  
 いません。主も気づかせようとな  
 さいません。まず丁寧に、彼らの  
 気持ちを聞きになります。  
 そしてその後で主が言われたこ  
 とは、要するに、聖書を読みなさ  
 いということ。このことは私たち  
 にとって大きな慰めではないでし  
 ようか。彼らは、主から直接にこ  
 の信仰に導かれ幸せだと思いき  
 しかし、もしそういう直接の導き  
 がなければ復活を信じることはで  
 きないとするならば、現代の私た  
 ちは、どうやって主の復活を信じ  
 ることができるのでしょうか



復活信仰が与えられる経路

牧師 上田 真由美

か。主はここで、わたしを本当に知りたいたらば聖書を読みなさいと言わんばかりに、聖書に書いてあることをあなたたちは信じなかつたのかと言われています。私たちは彼らのような有利な立場ではないように見えながら、決して不利ではなく、彼らと同じように聖書を読むことによって、主の復活を信じることができるということなのでしよう。

もう一つ大事なことは、今は死んだと言われる主が、わたしは復活してここにいとご自身のお姿を現されなかつたのは、主の復活とは、ただ死人が生き返ったという事実だけでは主の復活を信じる事ができないからでしょう。これまで世界中の人が、主の復活について、死人からの復活の方法や経緯ばかり知ろうとしてきました。そしてそれは結局、どうとも説明がつかないと言って、そして信仰を持つことができなくなっているのです。しかし、主ご自身が復活の方法や経緯をお語りにならなかったという事は、それらを

考えてみても、主の復活を信じることはできないということなのでしよう。

このエマオへの道中で、彼らが「主が聖書を説明してください」といふとき、私たちの心は燃えていたではないか」と語り合つたことは見逃してはならないと思います。聖書が語る神の救いの御業が分かつた時に初めて、私たちは復活の出来事を、自分の疑い悩みを越えて信じられるようになるということなのでしようから。改めて、世界中の多くの人に読まれ続けている聖書って何かって思うのです。自分を向上させ教養を身に着ける目的で聖書を求めると、読み違いが起こります。聖書は単なる人生の指導書ではありません。そうではなくて、聖書には生ける神がすべての人間を救うために、ご自分のすべてを私たち人間にお与えになつておられると書いてあります。しかも、そんなに神様の方がへりくだられ、ご自分のすべてを捨てることによつて、私たちのまことの神であられると書いてあります。そ

のことを、信仰をもつて読む人は、この神こそまことの神だと確信するに至るのです。

聖書の勧めを聞いた後、二人の弟子は主を中心にして食事をしました。「一緒に食事の席に着いた時、イエスはパンを取り、讚美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになつた。すると、二人の目が開け、イエスだと分かつたが、その姿は見えなくなつた」。この食卓は、主の聖餐に与る祝いの食卓です。主と一緒に食事をするということは、ただ楽しくおしゃべりしながら食事をすることではない。なぜなら、主と一緒に食事をする場合に、殊に聖餐において、その食事とは主の裂かれた体だから。主ご自身がパンを裂いてこれは私の体であると言われ、ぶどう酒をお分けになつてこれは私の血であると言われお与えになつたあの最後の晩餐のように、その食卓に与つたその時に、この二人は「イエスだと分かつた」のでした。つまり、生前の主イエスと今ここに復活なさつた主イエスとが同じひ



とりの主だと信じるに至ったので  
す。十字架について死なれたあの方  
が本当に復活されたのだと、そう  
信じさせるものは何なのか。それ  
は聖餐です。聖餐を他にしては、  
復活の主を信じさせるものは何も  
ないのです。なぜなら聖餐とは、  
聖書全体のその内容を聖餐という  
形で表したものといたっても差し支  
えないからです。ですから、聖餐  
に与る者は、それによって聖書全  
体を読み通すのと同じ恵みが与え  
られるのです。

は、私たちにとつても一番の願  
いではないでしょうか。主はその願  
いを聞き入れ、お留まりになりま  
した。しかし、聖餐によって、こ  
の方が主イエスだと分かつたらす  
ぐ、その御姿は見えなくなりました。  
主はなぜお留まりになつたの  
か。それは彼らに聖餐の恵みに与  
らせるためです。その後、主は去  
って行かれたのですが、自分たち  
といつも共にいてくださると、そ  
う確信できる信仰が与えられたの  
は、聖餐に与るといふ経験をして  
からなのです。

この二人の弟子、つまり無名の  
クレオパたちは、復活の主に出会  
つた後、大急ぎでエルサレムに引  
き返しました。そして、11人の弟  
子が実際に主は復活されたと言っ  
て大騒ぎしているところにかち合  
いました。彼らはおそらく、互い  
に手を取り合つて喜び、感謝に満  
たされたことでしょう。復活の主  
に出会つた彼らが初めにしたこと  
は、復活を語り合い、喜び合い、  
そして励まし合うことでした。そ  
して、その喜びを外に向かつて語

らずにはいられなくなつた。それ  
が情熱をもつた伝道として現れた  
のです。

彼らの心を燃やすものは何であ  
つたか。復活信仰が与えられる経  
路はどうであつたか。それは、聖  
書を読んで、その解き明かしを聞  
いて、聖餐に与ること。そのこと  
を通して、心は燃やされ、復活信  
仰が与えられるのです。彼らはそ  
のこと以外に復活を信じる道はな  
いと思つていた。だから、そのこ  
とを信仰生活の中心にしたのでし  
ょう。私たちもまた、主のお導き  
によって、聖書を味わい、聖餐に  
おいて聖書全体に書いてある恵み  
を受けるところによつてのみ、復活



信仰とまことの喜びが与えられる  
のです。 Ω